

# 31 高等学校 商業科実技 (問題)

(3枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 1 後の1～10の取引について、それぞれ仕訳を示しなさい。なお、勘定科目は、次の語群の中から最も適当なものを使用しなさい。ただし、勘定科目は、何度使ってもよいこととします。

語群

現金	当座預金	普通預金	受取手形
売掛金	商品保証引当金	売買目的有価証券	満期保有目的債券
子会社株式	その他有価証券	不渡手形	土地
貯蔵品	車両減価償却累計額	仮払法人税等	受取配当金
未払配当金	未払金	支払手形	社債
資本金	資本準備金	利益準備金	別途積立金
減価償却費	創立費	株式交付費	商品保証費
有価証券利息	社債利息	支払利息	有価証券評価益
繰越利益剰余金	租税公課	営業外受取手形	土地売却益

- 1 会社の設立に当たり、発行可能株式総数 10,000 株のうち 4,000 株を 1 株当たり ¥3,000 の価額で発行し、その全額の引受けと払込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、払込金の 6 割の金額を資本金とする。
- 2 帳簿価額 ¥15,000,000 の土地を ¥20,000,000 で売却し、売買代金の 60% は当座預金に入金され、残額は 6 か月後を支払期日とする手形で受け取った。
- 3 8月24日、売買目的の有価証券として、他社が発行する額面総額 ¥1,200,000 の社債(利率は年 0.40%、利払日は 3 月末と 9 月末)を額面 ¥100 につき ¥99.50 の裸相場で買い入れ、代金は直前の利払日の翌日から本日までの期間に関わる端数利息とともに小切手を振り出して支払った。なお、端数利息の金額については、1 年を 365 日として日割りで計算する。
- 4 株式会社 A 運輸は、決算に当たり保有している大型トラックの減価償却を生産高比例法にて行う。記帳は間接法によること。なお、当該トラックの取得原価は ¥40,000,000、残存価額は取得原価の 10%、総走行可能距離は 400,000 km、当期の走行距離は 50,000 km であった。
- 5 当座預金口座に、B 商会の株式に対する期末配当金 ¥320,000 (源泉所得税 20% を控除後) の入金があった旨の通知があった。
- 6 前期に保証書をつけて販売した商品について無償修理の依頼があり、貯蔵品に計上されている修理用部品を使用した分の修理費用合計 ¥1,750,000 が発生した。なお、前期末に計上した商品保証引当金の残高は ¥1,500,000 であった。

# 3 1 高等学校 商業科実技 (問題)

(3枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 7 取引先の発行済株式の10%を取得価額¥5,000,000で所有していたが、追加で50%を取得し取引先に対する支配を獲得することになり、代金¥22,000,000を普通預金から支払った。
- 8 かねて得意先より裏書譲渡されていた約束手形¥100,000が不渡りとなったので、得意先に対して手形代金の償還請求を行った。なお、償還請求にともなう費用¥5,000は現金で支払った。
- 9 固定資産税¥3,200,000(これを4期に分けて分納)の納税通知書と土地の取得原価に含める不動産取得税¥1,500,000の納税通知書を受け取り、これらを未払計上した。
- 10 定時株主総会を開催し、繰越利益剰余金¥4,200,000の処分を次のとおり決定した。なお、資本金は¥80,000,000 資本準備金は¥12,000,000 利益準備金は¥7,600,000であり、発行済株式数は4,000株である。

株主配当金：1株につき¥800      利益準備金：会社法が定める金額      別途積立金：¥500,000

- 2 次の資料は、広島商事株式会社の備品の取引を示したものです。資料を基に、下の1～6に答えなさい。なお、備品の減価償却は残存価額をゼロとして定額法によって行い、期中に備品を取得した場合の減価償却費は月割りで計算することとします。また、会計期間は1年(決算日は12月31日)であり、総勘定元帳は英米式決算法によって締め切ることとします。

資料

備品A	平成28年1月1日に現金で購入した。(取得原価¥250,000 耐用年数5年) 平成29年1月1日に¥150,000で売却し、代金は現金で受け取った。
備品B	平成28年1月1日に現金で購入した。(取得原価¥420,000 耐用年数8年) 平成30年1月1日に除却した。なお、見積処分価額は¥80,000であった。
備品C	平成28年10月1日に現金で購入した。(取得原価¥200,000 耐用年数4年)

- 1 備品Aについて、平成29年1月1日における売却損の金額はいくらですか。求めなさい。
- 2 備品Bについて、平成30年1月1日における除却損の金額はいくらですか。求めなさい。
- 3 備品Bの減価償却について、定額法に代えて200%定率法(償却率年25%)で行っていた場合、平成30年1月1日における備品Bの除却損の金額はいくらですか。求めなさい。
- 4 平成28年度(平成28年1月1日～同年12月31日)における備品の減価償却費の総額はいくらですか。求めなさい。
- 5 平成29年度(平成29年1月1日～同年12月31日)における備品の減価償却費の総額はいくらですか。求めなさい。
- 6 平成29年度(平成29年1月1日～同年12月31日)における備品勘定及び備品減価償却累計額勘定への記入を行いなさい。

31

# 高等学校 商業科実技 (問題)

(3枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 3 次の資料は、A商事株式会社の直接原価計算方式による当年度の損益計算書を示したものです。資料を基に、下の1～5に答えなさい。ただし、平均変動費率及び年間固定費については、次年度も当年度と同様であることとします。

資料

損益計算書	
〔単位：万円〕	
売上高	10,000
変動売上原価	<u>6,200</u>
変動製造マージン	3,800
変動販売費	<u>300</u>
貢献利益	3,500
製造固定費	1,900
固定販売費及び一般管理費	<u>900</u>
営業利益	<u><u>700</u></u>

- 1 損益分岐点の売上高はいくらですか。求めなさい。
- 2 安全余裕率はいくらですか。求めなさい。ただし、パーセントの小数第1位未満を四捨五入しなさい。
- 3 損益分岐点の売上高を200万円引き下げるためには、固定費をいくら減少させる必要がありますか。求めなさい。
- 4 営業利益を現在よりも700万円増加させ、1,400万円とするために必要な売上高はいくらですか。求めなさい。
- 5 売上高を現在よりも600万円増加させた場合、それにとまって営業利益はいくら増加しますか。求めなさい。

31 高等学校 商業科実技 (解答用紙)

(2枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄	
	借方	貸方
1	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	

# 31 高等学校 商業科実技 (解答用紙)

(2枚のうち2)

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

問題番号	解答欄																																								
	1 [円]																																								
	2 [円]																																								
	3 [円]																																								
	4 [円]																																								
	5 [円]																																								
2	備 品																																								
6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="3">日 付</th> <th>摘 要</th> <th>借 方</th> <th colspan="3">日 付</th> <th>摘 要</th> <th>貸 方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29</td><td>1</td><td>1</td> <td>前期繰越</td> <td></td> <td>29</td><td>1</td><td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td> <td></td> <td></td> <td></td><td>12</td><td>31</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="border-top: 1px dashed black;"></td> </tr> </tbody> </table>	日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方	29	1	1	前期繰越		29	1	1									12	31												
	日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方																															
	29	1	1	前期繰越		29	1	1																																	
							12	31																																	
	備品減価償却累計額																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="3">日 付</th> <th>摘 要</th> <th>借 方</th> <th colspan="3">日 付</th> <th>摘 要</th> <th>貸 方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29</td><td>1</td><td>1</td> <td></td> <td></td> <td>29</td><td>1</td><td>1</td> <td>前期繰越</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td><td>12</td><td>31</td> <td></td> <td></td> <td></td><td>12</td><td>31</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="border-top: 1px dashed black;"></td> </tr> </tbody> </table>	日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方	29	1	1			29	1	1	前期繰越			12	31				12	31													
日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方																																
29	1	1			29	1	1	前期繰越																																	
	12	31				12	31																																		
3	1 [万円]																																								
	2 [%]																																								
	3 [万円]																																								
	4 [万円]																																								
	5 [万円]																																								